

# 3



**木があると  
心が落ち着き、  
マツがきれいになると  
気持ちがいい。**

有限会社 植辰造園土木

**浮谷芳之さん**  
Yoshiyuki Ukiya

**市** 川市の木にはクロマツがありま  
す。特に市川の北部に多いとい  
われ、住宅地を歩くときつと伸びたマ

ツが今でも見られま  
す。こうしたマツの  
手入れをするのが植  
木職人・浮谷芳之さ  
んの仕事です。この  
日は浮谷さんのお得  
意さまの家に同行さ  
せていただきました。  
手入れは年に2回。  
道具は足袋、はしご、  
ハサミだけです。は  
しごを立て上から順  
に切っていきます。  
大きさにもよります  
が、2、3時間かかるものから、大き  
いものになると2日がかりになること  
もあるそうです。虫がつきにくいよう



作業は上から順に伸びたところを切り、古い葉を落としていく。

に伸びたところをカットし、古い葉を  
落とし、風通しを良くします。そして、  
はしごをいったん降りて全体のバラン  
スを見ながら形よく仕上げます。「枝  
の抜き方をバランスよくすることが一

番大切です」と浮谷さんは言います。  
浮谷さんは市川生まれの市川育ちで、  
親子3代目の植木職人。植木職人にな  
って16年ほどになります。一人前の  
職人になるには、長い間の経験が必要  
です。

マツの管理は手入れと同様たいへん  
です。マツの状態がおかしいところを  
見かけたらお客さんの家にお邪魔して  
話したり、日頃からお客さんとのコミュ  
ニケーションを大切にしています。い  
ったん虫がマツの中に入り込んでしま  
うと、枯れてしまうこともあるそうで、  
そういう場合にはマツを切ってしまう  
なければならぬそうです。



マツの手入れに使う道具。ハサミは形も大きさもさまざま。

# 花と緑 の 集 特 集 い ち か わ の 花 と 緑 の 守 り 人

# 4



**心なごみ、  
優しい気持ちに  
させてくれるもの、  
それが花の力です**

いちかわ花の輪をひろげる会

**長谷俊子さん**  
Toshiko Hase

**い** きなり目に飛び込んできたのは、  
ペチュニア、サフィニアなどの  
色鮮やかな花の群。思わず、うわーと  
感嘆の声をあげたほどみごとな光景が  
広がります。

今年3月、まだつぼみも見えない  
若い苗を買い求め、南側の裏庭で大切  
に育み、満を持してこの5月に玄關前

上がった花壇のテーマは「雅」。「い  
ちかわ花の輪をひろげる会」主催によ  
る花壇コンクールの、「新世紀大賞」  
に輝いた、雅で華麗な世界がここに  
広がります。

長谷さんのガーデニングは、色を  
まとめる、優しさがある、上品さをか  
もしだす、そしてかわいらしさがある  
ことをポイントに置  
いて、常に花壇全体  
が一つの作品となる  
ように作り上げて  
いきます。それは、  
単なる花壇を超え、  
芸術作品といったほ  
うがふさわしいでし  
ょう。



の花を総入れ替えし  
てつくり上げたのです。  
イメージ通りに出来



「今日は写真を撮ってもらうのよ」。長谷さんが話しかけることばに答えるかのように、風にそよぐ。

花が長谷さんに語りかけ  
てくれるのは当然のこと  
と言えます。

道行く人々が足を止め、  
目を楽しませ、心なごみ、  
花の話に花が咲き、人の  
輪が広がります。「花は  
不思議な力を持っている  
んです。とても気むずか  
しい顔をしていたかたも、  
頬をゆるめ笑顔を取り戻してくれ  
ます。お顔が輝き、とても優しい  
気持ちになつてくれるんです。  
ここに安らぎを見つけて、  
楽しんでいただけられるのが  
とても嬉しいのです」と、  
長谷さんは花を育てる喜びを  
語ってくれました。

野中さんのバラ



## いちかわ花の輪をひろげる会

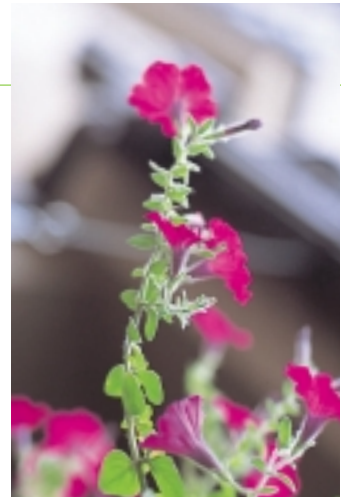
「豊かな心と花いっぱいのまち・いちかわ」  
をつくることを目的に1982年9月に発足。以来、  
花の祭典、花の名所づくり、花壇設置の推進など  
の活動を積極的に行っています。花壇コンクール  
は今年で12回目。

今年の主な受賞者は

市長賞	鈴木登志子さん(宝在住)
教育長賞	山崎増子さん(新田在住) 野中達夫さん(鬼越在住)
緑の基金賞	奥井啓子さん(曾谷在住)
会長賞	松崎まさ子さん(曾谷在住)

全くの独学で花  
を育て始めたのが7  
年前でした。始めは  
思うように育たなか  
ったり、虫にやられ

たりと、試行錯誤の連続だったそうです。  
「2年、3年と続けるうちに、次第に  
花が私に教えてくれるようになって  
ですよ」と長谷さんは言います。  
わが子のようにいつくしみ、手塩  
に掛けて育て上げる長谷さんが一番  
を使うのが天候です。雨に弱  
い花には傘を差し延べ、長雨  
が続けば軒下へ移し、夏に弱  
い花には日除けをつくるなど、  
花に合わせた環境づくりが欠  
かせません。台風だ、雪だ、  
といえはすべてを家の中に避  
難させます。これほどの愛情  
を傾けて育てているのですから、



惜しみない愛情に育てられた花。